

## ラーニング・サポーター ♪ 2月のつぶやき -JWUラーニング・コモンズさくらより-

図書館 2 階 JWU ラーニング・コモンズさくら(以下「さくら」と略)では、学科・専攻推薦を受けたラーニング・サポーター(本学大学院生)が学修相談を受け付けます。学修相談以外にもミニ講座の開催や「さくら」の活動支援をしながら、感じたこと、思ったことを「つぶやき」、本学学生の皆さんに学修相談に訪れてもらいたいと思っています。ラーニング・サポーターは「さくら」で皆さんをお待ちしています！

### <2月のつぶやき♪INDEX>

p1 チョコレート @K.S.(日本文学専攻博士課程後期1年) 2月14日 tweet

#### つぶやき1 ♪ チョコレート

2月14日はバレンタイン。世の中が赤やピンクで華やかに彩られる日。ふらっとお店に立ち寄ると、おしゃれな包装紙のチョコレートが並んでいる。最近は義理チョコがなくなって、自分へのご褒美チョコを買い求める人が増えたんだとか。カフェにもチョコレートを使ったメニューが溢れていて、甘いもの好きの私にとって2月は幸せに満ちている。

そんな時、ふと耳にしたのが「平成チョコ」というもの。平成生まれではあるけれど、小さい頃にそんな名前のチョコレートはなかったように思う。それもそのはず。私が実際に目にしていた頃は特別な名前を持たないチョコレートだったから。作り方はいたってシンプル。市販の板チョコを溶かして、100円ショップに売っている小さなアルミのカップに流し入れる。固まる前にキラキラしたシュガーや小さなハート型のシュガーを振りかけて、最後にかわいくラッピングしたら完成。文字に書くとあつけないけれど、小学生が13日の放課後に自力で作るとなると、これでも大変な(お菓子作り)だった。湯煎にも一苦労して、いざカップに入れようとすると表面がなかなか平らにならない。何度も挑戦するうちに家の中はすっかりチョコレートの甘い香りに満たされる。14日の学校では、皆がこの手作りチョコを交換する。そんな中でおしゃれな生チョコを自作して来る子がいると、一気に憧れの的だった。少し気になる男の子には、女の子にあげるついでを装って内心ドキドキしながら渡したような気がする。

懐かしさなんでもっと先の感情かと思っていたのに、最近、小さい頃に好きだったものを見かけるとつい立ち止まってしまう。忘れかけていた思い出が、その場にいた人たちとの会話と共に蘇っていく。そうか、これが〈懐かしさ〉なんだなと、聞きなれた言葉が実感を伴って再び自らの中に吸収されていくのを感じる。「平成チョコ」、新しい名前を得たチョコレートを久しぶりに作ってみたい気がした。

